

公開実用平成 1-168473

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

平 1-168473

⑬ Int. Cl. \*

B 65 D 81/32  
77/04

識別記号

庁内整理番号

G-7191-3E  
F-8407-3E

⑭ 公開 平成 1 年(1989)11月28日

審査請求 有 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 包装体

⑯ 実 願 昭63-64022

⑰ 出 願 昭63(1988)5月17日

⑱ 考 案 者 井 上 武 男 神奈川県横浜市西区御所山町45

⑲ 出 願 人 東海金属株式会社 神奈川県横浜市神奈川区宮家町1番地

⑳ 代 理 人 弁理士 有賀 三幸 外2名

明 細 書

1. 考案の名称

包装体

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 一縁辺部に開披用の2片の耳部を形成せしめて一の内容物を密封した内袋を、他の内容物を密封した外袋に、当該内袋の2片の耳部を当該外袋の相対向する異なる内面にそれぞれ各別に接着して収納せしめたことを特徴とする包装体。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は包装体、更に詳細には例えば冷寒剤や発熱剤等の化学反応物、あるいはドレッシング等のミックス食品の如く、使用時に2

種の物質を混合せしめる必要がある場合の包装体に関する。

〔従来の技術〕

従来、斯かる物質の包装は、非使用時に於てはその接触を防止しなければならないため、それぞれ各別の包装体に収納し、使用時に他の容器体等に入れて混合する方法や、境界部に加圧等によるイージーピール性シール部を形成せしめて２個の収容部を並設した包装体を用い、当該各収容部に各別に収納し、使用時に境界シール部を各収容部への加圧等により剝離せしめて、両者を混合する方法が一般的であつた。

〔考案が解決しようとする課題〕

然しながら、上記の各別包装方式の場合に

は、開封後別容器にて混合するため、内容物は汚染される；開封及び混合時に内容物が皮膚や衣服に付着する；内容物が飛散性物質（粉体）や揮発性物質の場合には開封及び混合時に大気中への飛散や揮発が生じる等の欠点があり、また上記イーシーボール性シール方式の場合には、各収容部間の開通部が狭く極く限られたものであるため、液体（流体）相互混合の場合であつても混合効率性に劣り、況んや固体混合の場合には事実上不可能である；製品の製造段階や流通段階で取り扱いミス等の外的要因による加圧等により両物質が容易に混合されてしまう危険性がある等の欠点を免れなかつたのが実状であつた。

斯かる実状に於て本考案者は種々検討を重

ねた結果、上記の如き従来の欠点を解消した  
本考案包装体を案出したものである。

〔課題を解決するための手段〕

すなわち、本考案は一縁辺部に開披用の2  
片の耳部を形成せしめて一の内容物を密封し  
た内袋を、他の内容物を密封した外袋に、当  
該内袋の2片の耳部を当該外袋の相対向する  
異なる内面にそれぞれ各別に接着して収納せ  
しめたことを特徴とする包装体である。

〔実施例〕

以下一実施例を示す図面と共に本考案を更  
に説明する。

1 は一の内容物 A を密封した内袋で、一縁  
辺部に切り込み 11 により開披用の2片の耳  
部 12a、12b が形成せられているもので

ある。尚、内袋 1 の具体的密封法はその如何を問わないが、側縁部 1 3 をヒートシールせしめるのが簡便である。

2 は他の内容物 B を密封した外袋で、その具体的密封法もその如何を問わないが、側縁部 2 1 と共に、前記 2 片の耳部 1 2 a、1 2 b と直交するような上下両面の中央部位 2 2 に於て突出帯状にヒートシールせしめるのが、当該突出シール部の把持による開破操作性に良い結果を与える。

而して、斯かる内袋 1 と外袋 2 とは、前者が後者に収納せられているものであるが、当該内袋 1 の 2 片の耳部 1 2 a、1 2 b は、当該外袋 2 の相対向する異なる内面 2 a、2 b に、すなわち内袋耳部 1 2 a は外袋内面 2 a

に、内袋耳部 1 2 b は外袋内面 2 b にそれぞれ各別にヒートシール等により接着せられている。

〔作用〕

本考案は以上の如く構成せられるものであるから、内袋耳部 1 2 a、1 2 b に近接する外袋 2 の上下両面部（突出シール部が存する場合には当該突<sup>出</sup>シール部）を適宜把持し、両<sup>1</sup>字挿入外方向（図中矢印 P）に引張れば、外袋内面 2 a、2 b にそれぞれ内袋耳部 1 2 a、1 2 b が接着せられているので、内袋 1 が切り込み 1 1 から引き裂かれ、切断開披されて内容物 A 及び B の混合が外袋 2 内に於て行なわれる。

〔考案の効果〕

以上従つて、本考案包装体を用いれば、混合は外袋内に於て行なわれるため、従来の各別包装方式の如き欠点は全く存しない。

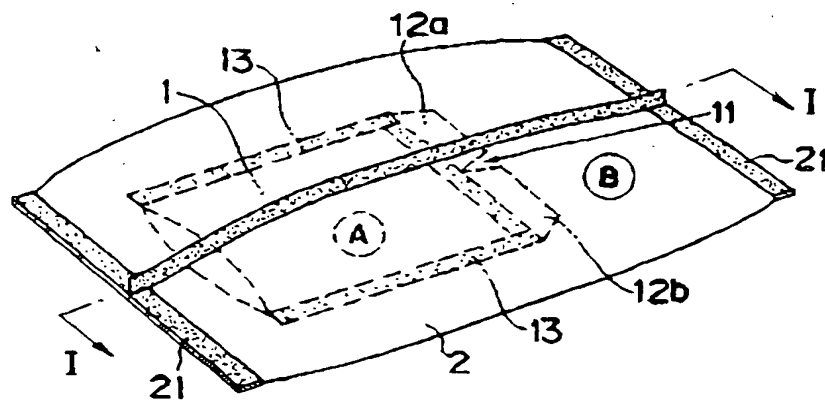
また、本考案内袋は単なる加圧による開通ではなく、引き裂き切断による開披であるため、外的要因による使用前破断は発生し難く、しかも使用時に於ては大きく破断される結果、混合が速やかに行なわれ、液体（流体）のみならず、固体相互の混合にも極めて有利に適用実施し得るものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

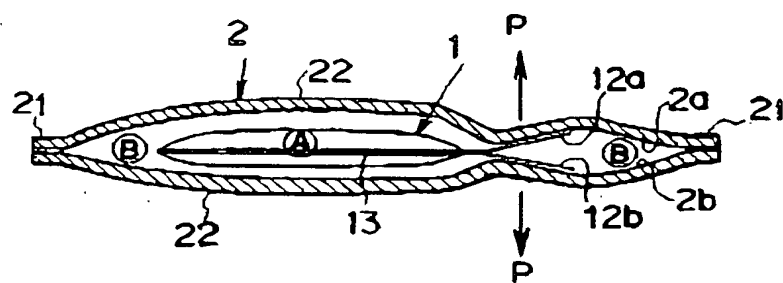
図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図はその斜視説明<sup>図</sup>、第2図はI-I線断面<sup>1字挿入</sup>説明図である。

以 上

第1図



第2図



1: 内袋      12a, 12b: 内袋耳部  
2: 外袋      2a, 2b: 外袋内面